

Haruguchi Hiroshi Jul 3, 1949
 Time: 12:00PM Zone: 9:00 DST: 0
 Shizuoka
 Longitude: 138E19 Latitude: 35N06 CurPer: Sa/Mo/Ma
 Lahiri Ayanamsa: 23:09 365.25 Day Year

Ke 29:04		Ma 23:07 Me 26:52	Su 17:43
			Ve 3:16
JuR 6:14			Sa 9:22
			Mo 14:53 Tu 18:38 We 29:04

As 18:38	Vi	Vimshottari Dashas
Su 17:43	Ge	Mo Jul-03-1949
Mo 14:53	Vi	Ma Nov-04-1955
Ma 23:07	Ta	Ra Nov-04-1962
Me 26:32	Ta	Ju Nov-03-1980
JuR 06:14	Cp	Sa Nov-03-1996
Ve 08:16	Cn	Me Nov-04-2015
Sa 09:22	Le	Ke Nov-03-2032
Ra 29:04	Pi	Ve Nov-04-2039
Ke 29:04	Vi	Su Nov-04-2059

Su Ra		Mo	As Se
JuR			Va
			Ve
			Ve Ke

関東学院大学ラグビー部を6度の全国大会優勝へと導いた名将、春口廣監督が、部員の大麻吸引の責任を取り、ラグビー部監督を辞任した。

大麻事件の責任免れず...関東学院大・春口監督辞任、最悪廃部も

(サンケイスポーツ 2007年12月5日 07時27分)

6度の大学日本一を誇る関東学院大ラグビー部の総帥、春口廣監督(58)が4日、同部員14人の大麻吸引などの責任を取って監督を辞任した。部員全員は3月末まで、練習などを含む一切の活動を停止する。大学側は事件が拡大すれば、廃部とする可能性も示唆。無名のチームを一代で大学最強軍団に築き上げた名将は、“身内”の不祥事で栄光の歴史に幕を閉じる。

強姦、暴行、そして大麻...。大学の運動部員による不祥事が社会を騒がせる中、大学選手権6度、関東大学リーグ戦10度の優勝を誇る関東学院大を率いる名将が、グラウンドを去る。

先月8日に同大ラグビー部員2人が大麻所持で現行犯逮捕された事件に続き、今月3日には、さらに12人の部員による大麻吸引が発覚。8月の夏合宿中の吸引や、9月の英国遠征中に大麻種子を購入したことも判明。名指揮官を失う事態にまで発展した。(以後省略)

出生時間が分からないため、チャンドララグナで検証すると、6室支配の土星と8室支配の火星が相互アスペクトして、それはラグナロードの水星に絡んでいる。そしておそらくマハダシャーは土星期である。

土星は5室支配で12室に在住し、教え子(ラグビー部員)を損失する、あるいは教え子によって出費する、引退するというような象意を表している。

土星が獅子座に入室してから、彼を辞任に導くような事態が進行していたと思われるが、土星はマハダシャーロードの土星にトランジットしており、サターンリターンであり、ちょうど人生の大きな区切りに差し掛かっていたと言える。このサターンリターンは土星が出生図上に形成するカルマが現象化する時期であり、試練の時期で土星が絡むハウスの象意において責任が生じる時期である。

土星は5室の支配星のため、教え子に対する責任によって、監督辞任に追い込まれている。

現在、土星が獅子座に入室したことにより、サディサティにも突入しており、人生において特に厳しい時期である。

そして、監督が辞任を決めたのは12月4日であり、木星の射手座への移行と関係していると思われる。木星は4室に在住して、8、12室のモクシャハウスにアスペクトしており、12室にダブルトランジットを形成している。12室は隠遁、監禁、出費のハウスである。

また4室は自分の心や住まいでの私生活を表しており、自分の内に閉じこもらざるを得ない時期となっている。そして、8室も12室もそのような象意があり、いずれも内側に閉じこもり、物質界での不幸の代償を得ながら、何か精神的な学びの時期にいるということかもしれない。

8室は変化を表し、12室は隠遁生活である。

トランジットの土星はマハダシャーロードであり、出生の土星に接合し、8室支配の火星とラグナロードの水星にアスペクトしている。従って、土星と火星、水星が形成するカルマが噴出するタイミングと言える。

ラグナロードの水星は9室に在住しており、春口監督は経済学部教授であり、教育の仕事に携わっていることと関係していると思われる。その水星に8室支配の火星が接合して、彼を苦しめる何か不道徳で、彼の致命傷となる出来事によって、彼の教育者としての立場が傷つけられることを表している。

そして、その8室支配の火星は5室支配の土星と相互アスペクトで絡んでおり、教え子に関する何か突然の不幸や変化が生じることが示されていた。そして、6室と8室の絡みは犯罪を表す絡みである。

木星はラグナロードの水星や火星にアスペクトしていたためか、事件が発覚した直後は、教え子と一緒に寝泊りするなどして、教え子の生活指導を徹底したりなどして、何とかこの事態をしのごうとしていたのである。然し、木星が射手座に移行した後は、部員12人が新たに吸引を認めたことなどを受け、ついに辞任という結果となったようである。最終的に悪い結果が結実するのは木星のトランジットが失われるタイミングのようである。

仮に5室を教え子のラグナとしてもラグナロードの土星が8室に在住しており、何か不道徳、薬物中毒などによって苦しむ配置である。また環境が突然に変化するという配置である。今回の騒動によって、部員たちは廃部の危機に追い込まれており、熱心に情熱を傾けてきた選手生命が終わる可能性が出てきているのである。その8室在住の土星に対して、土星がトランジットし、正にカルマが噴出するタイミングで、木星も12室から8室にアスペクトして、8室にダブルトランジットが形成されている。8室や12室というドゥシュタナハウスの象意が出ており、教え子にとって非常に困難な時期で変化をもたらし、自分の居場所が失われ、隠遁、監禁生活（逮捕された学生の場合）に追い込まれることが示されている。

そして、12月5日現在、トランジットの火星が双子座で逆行しており、出生の火星に接合すると共に土星に対して、アスペクトしている。従って、ダシャーロードの土星は火星と土星の両方のトランジットを受けている。

春口監督はラグビー大学選手権にて6度の全国優勝に輝き、名将として名声を欲しいままにし、雑誌の取材や書籍にて自らの教育論を出版するなど、今を輝く時を人であった。この期間を通して、土星が乙女座の月から見て、10室と11室を通過していた時期である。

土星が獅子座12室に移動する直前に教え子の大麻事件が起こり、そして、木星が射手座に入室して、12室にダブルトランジットが形成された直後の12月4日に大麻事件の責任を取って辞任したのである。土星のトランジットはまさに春口監督自身を表しており、土星のトランジットの重要性がよく分かる。また木星のトランジットのタイミングが春口監督が辞任のタイミングを表していることもよく分かるのである。

Prasna Dec 4,2007
 Time: 12:00PM Zone: 9:00 DST: 0
 tokyo
 Longitude: 139E38 Latitude: 35N42 CurPer: Mo/Sa/Ve
 Lahiri Ayanamsa: 23:58 365.25 Day Year

			MaR 15:59
Ra 7:46 As 16:00			
			Ke 7:46 Sa 14:22
Ju 2:41	Me 10:08 Su 17:36	Ve 4:22	Mo 16:29

・辞任会見のあった12月4日のトランジット

(資料)

大麻事件の責任免れず...関東学院大・春口監督辞任、最悪廃部も
(サンケイスポーツ 2007年12月5日 07時27分)

6度の大学日本一を誇る関東学院大ラグビー部の総帥、春口廣監督(58)が4日、同部員14人の大麻吸引などの責任を取って監督を辞任した。部員全員は3月末まで、練習などを含む一切の活動を停止する。大学側は事件が拡大すれば、廃部とする可能性も示唆。無名のチームを一代で大学最強軍団に築き上げた名將は、“身内”の不祥事で栄光の歴史に幕を閉じる。

強姦、暴行、そして大麻...。大学の運動部員による不祥事が社会を騒がせる中、大学選手権6度、関東大学リーグ戦10度の優勝を誇る関東学院大を率いる名將が、グラウンドを去る。

先月8日に同大ラグビー部員2人が大麻所持で現行犯逮捕された事件に続き、今月3日には、さらに12人の部員による大麻吸引が発覚。8月の夏合宿中の吸引や、9月の英国遠征中に大麻種子を購入したことも判明。名指揮官を失う事態にまで発展した。

狭心症で2日から入院中の同監督はこの日、関東ラグビー協会の貴島健治副会長との電話で「これだけの(事件の)広がり、すべて自分の管理責任です。引き留められようが、辞任したい」と辞意の固さを語った。同大教授の職には止まるが、ラグビー部監督の後任については白紙の状態。関東学院大は(1)部の今年度一切の活動停止(2)部員に対する説明会の開催(3)調査委員会を設置して部員全員に対する個別面談の実施(4)事件に関与した部員の厳正な処分 - などを決めた。

昭和49年の監督就任当初は部員8人だった弱小ラグビー部を、選手と一体となって強化し、平成2年度には大学選手権に初出場。ここ10年は連続で決勝戦まで勝ち進む偉業を達成した。昨季の優勝を含めて6度の全国制覇を果たし、9月にフランスで開催されたW杯で主將を務めたNO・8箕内拓郎選手(NEC)、FB有賀剛選手(サントリー)ら日本代表に多くの選手を送り込んだ。

しかし、最強軍団としての名声を築く一方で、ここ10年以上は、常に150人を超える部員を抱えながら、後継者としても期待された若手コーチが次々とチームを去り、全部員に目が届かない状態に陥っていた。関東ラグビー協会幹部も「結果的には勝利至上主義になってしまったのではないか」と常勝チームの死角を事件の背景に挙げた。

これ以上事件が拡大した場合は、廃部も検討するというチーム存亡の危機。今月16日からは大学日本一をかけた全国大学選手権が始まる大学ラグビー界で、チームの大きな柱を失った名門チームは、再建へのいばらの道を歩き始める。

(資料2)

春口前監督「ラグビー裏切った」と涙

12月6日9時26分配信 日刊スポーツ

部員の起こした大麻事件で引責辞任した関東学院大ラグビー部の春口広前監督(58)が5日、入院先の横浜市内の病院で会見した。2日夜、狭心症と事件からくる心労で入院。この日は主治医に伴われて憔悴(しょうすい)しきった表情で現れ「最も好きなラグビーを裏切ったことは間違いない。ですから、辞めます」と、頭を下げた。

11月上旬に部員2人が逮捕された時点で、3カ月間の指導自粛、部も3カ月間の対外試合自粛を決めた。前監督は「あの時の決断は甘かった。辞任していれば混乱はなかった」と悔やんだ。部員全員を調査して関与なしとしていたが、新たに12人の吸引が発覚。「言い出せない気持ちは分からないでもない」と学生を思いやりながらも「ショックです」と言うと、あふれそうな涙を手でぬぐった。

大学側のラグビー部への処分は来年3月までの活動自粛。「甘い」という声もあるが、同氏は「大学側はいろいろと考えてくださった。本当に申し訳なく思っています」と話した。「私が全責任を負わなければ」とも言った。「本当に部ぐるみなのか、みんなで作っていたのか、なぜ発見できなかったのか、それを探していきます」と言葉を絞り出した。会見は約30分間、主治医のドクターストップで打ち切られた。

(資料3)

春口廣(はるぐちひろし、1949年7月3日-)は関東学院大学経済学部教授、同ラグビー部監督。NPO法人横濱ラグビーアカデミー理事長。静岡県生まれ。日本体育大学専攻科修了。

愛知高校でラグビーを始める。日体大でのポジションはスクラムハーフ(SH)、しかしレギュラー入りは出来なかった。向の岡工業高校勤務を経て、1974年に関東学院大学ラグビー部監督に就任。就任当初は関東大学ラグビーリーグ戦グループ3部に所属していた部員8人のラグビー部を、全国大学ラグビーフットボール選手権大会優勝6回へと導いた。

また、長男の春口翼も関東学院大学在学中はレギュラーとして活躍。卒業後の現在は、リコーブラックラムズでプレーしている。

(ウィキペディアより引用抜粋)